

2018年度

事業報告書

学校法人 大同学園



目次

1. 学校法人の概要

(1) 学校法人大同学園創設の経緯	1 頁
(2) 沿革	1
(3) 設置する学校の建学の精神と理念と教育目標	3
(4) 設置する学校・学部・学科等	4
(5) 学校・学部・学科等の定員、学生生徒数の状況	4
(6) 役員・評議員・教職員の概要	5
(7) 学園組織構成図	6

2. 事業の概要

(1) 大同大学	7
【教育・研究活動の特徴】	7
【学生の活動実績(強化クラブ・その他クラブ)】	10
【国際交流】	10
【産学連携】	10
(2) 大同大学大同高等学校	11
【全般】	11
【教育活動】	11
(3) 施設等の状況	12
(4) 教員(FD)・職員(SD)の充実	12

3. 財務の概要

(1) 当該年度の財務状況		
①教育活動収支差額	13	
②基本金組入前収支差額	13	
③固定資産取得額	13	
④フリーキャッシュフロー	13	
(2) 主な財務指標の推移	14	
(3) その他 有価証券・借入金・寄付金・関連当事者等との取引 の状況	15	
資金収支計算書	16	
活動区分資金収支計算書	17	
事業活動収支計算書	18	
貸借対照表	19	
財産目録	20	

1. 学校法人の概要

(1) 学校法人大同学園創設の経緯

学校法人大同学園は、大同製鋼(株)(現在の大同特殊鋼(株))第4代社長下出義雄により昭和14年(1939)の「財団法人大同工業教育財団」創設、「大同工業学校」開校に始まります。

下出義雄は、(株)電気製鋼所初代社長下出民義の長男で、大正6年(1917)に(株)電気製鋼所取締役就任。企業経営に携わるも、教育への情熱は盛んで、父に協力して大正12年(1923)に東邦商業学校の設立にかかわりました。昭和6年(1931)に(株)大同電気製鋼所第4代社長に就任してからも教育に対する情熱はますます高まり、「私は今まで物を生産することに全力を注いできたが、これからは技術者を養成して社会、国家に貢献したい」との信念のもと、工業学校設立を決意しました。昭和13年(1938)10月の大同製鋼(株)定期株主総会で、工業学校設立に関する寄附行為について承認を得て、同年11月文部省(現在の文部科学省)に申請。昭和14年(1939)1月に「財団法人大同工業教育財団」が設立され、同月、「大同工業学校」の設置認可を経て、同年4月に甲種工業学校として開校し、今日にいたる学園の歴史がスタートしました。

(2) 沿革

・大同大学大同高等学校の沿革(概略)

昭和14年4月に開校した大同工業学校はその後、昭和23年3月に新制高等学校に認可され大同工業高等学校となり、また、昭和48年4月には普通科を新設しました。なお、校名につきましては、昭和51年に大同高等学校に、平成14年に大同工業大学大同高等学校に、さらに平成21年に大同大学大同高等学校に変更しております。

(1939)	昭和14年	1月	財団法人大同工業教育財団を設立
		4月	財団法人大同工業教育財団により大同工業学校を開校
(1948)	昭和23年	3月	新制高等学校に認可され大同工業高等学校となる
(1961)	昭和36年	7月	学校法人大同学園と改称
(1962)	昭和37年	4月	知多市岡田に知多分校開校
(1973)	昭和48年	4月	普通科を増設
(1976)	昭和51年	3月	大同高等学校に校名を変更
(1997)	平成9年	4月	男女共学になる
(2002)	平成14年	4月	大同工業大学大同高等学校に校名を変更
(2003)	平成15年	4月	名古屋校舎新キャンパス完成
(2004)	平成16年	4月	知多分校を名古屋校舎へ統合
(2009)	平成21年	4月	大同大学大同高等学校に校名を変更 大同グランドスポーツコート竣工

・大同大学の沿革(概略)

中部地区の産業界[大同特殊鋼(株)、中部電力(株)、名古屋鉄道(株)など31社]の強い要望に応え、昭和37年に大同工業短期大学を設置しました。その2年後の、昭和39年には、同短期大学の学生募集を停止するとともに、機械工学科と電気工学科の2学科からなる大同工業大学を設置しました。以来、社会の要請、時代のニーズを反映し、学科増設によって工学部の充実を図りつつ、平成2年には大学院を開設、平成14年には情報学部情報学科を設置し、現在は、2学部7学科、大学院2研究科6専攻としました。なお、校名につきましては、平成21年に大同工業大学から大同大学に変更しております。

(1962)	昭和37年	4月	大同工業短期大学を設置 機械科を置く
(1963)	昭和38年	4月	電気科を増設
(1964)	昭和39年	4月	大同工業大学を設置 機械工学科、電気工学科の2学科を置く
(1973)	昭和48年	4月	情報処理センターを開設(現、情報センター)
(1975)	昭和50年	3月	白水校舎竣工
		4月	建設工学科を増設
(1983)	昭和58年	7月	滝春校舎竣工
(1985)	昭和60年	4月	応用電子工学科を増設
(1989)	平成元年	9月	新図書館を竣工
(1990)	平成2年	4月	大学院工学研究科修士課程を設置 機械工学専攻、電気・電子工学専攻、建設工学専攻の3専攻を置く
(1995)	平成7年	4月	大学院工学研究科に博士後期課程を設置 材料・環境工学専攻を置く
(1999)	平成11年	3月	石井記念体育館(大学体育館)竣工
(2000)	平成12年	4月	産学連携共同研究センターを開設
		12月	滝春校舎新キャンパス竣工
(2001)	平成13年	4月	情報機械システム工学科、都市環境デザイン学科を増設 電気工学科を電気電子工学科に名称を変更 応用電子工学科を電子情報工学科に名称を変更 建設工学科を建築学科に名称を変更 創造製作センター・授業開発センターを開設
(2002)	平成14年	4月	情報学部情報学科を設置 エクステンションセンターを開設
(2003)	平成15年	4月	学習支援センターを開設
(2005)	平成17年	4月	大学院情報学研究科修士課程に情報学専攻を設置
		10月	燃料電池研究センターを開設
(2006)	平成18年	3月	滝春校舎にS棟を竣工
		4月	工学部ロボティクス学科を増設 大学院工学研究科修士課程に建築学専攻、都市環境デザイン学専攻の2専攻を増設
(2007)	平成19年	4月	研究支援センターを開設
(2008)	平成20年	2月	においかおり研究センター開設
		4月	情報学部に情報システム学科、情報デザイン学科を増設
(2009)	平成21年	4月	大同大学に校名を変更
(2010)	平成22年	4月	工学部に総合機械工学科を増設
(2010)	平成22年	11月	滝春校舎にゴビーステージ竣工
(2012)	平成24年	4月	情報学部に総合情報学科を増設
(2018)	平成30年	4月	総合機械工学科を機械システム工学科に名称を変更 教育開発・学習支援センターを開設
		10月	モータ研究センターを開設

(3) 設置する学校の建学の精神と理念と教育目標

・大同大学大同高等学校

■建学の精神	社会で有為な人材の育成	
■教育目標	明朗闊達で、確かな学力を備え、社会で有為な人間の育成	
	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣を身につけた責任感を持った人間を育成する ・確かな学力・技能を備えた人間を育成する ・主体的、継続的に学ぶ人間を育成する ・多様な人々や自然と共生することができる人間を育成する ・生徒一人ひとりの生き方を視野に入れた進路指導を推進する 	
■教育信条	汗と愛	挑戦すること、努力することを惜しまず、如何なる場面においても他者を尊重し、人に愛される人物となるように努める。
	質実中庸	質素で誠実な人物となるように努める 明朗闊達で、偏りのない柔軟な思考を備えた人物となるように努める。 常に学ぶ姿勢を持ち、混沌とした状況の中にあっても
	創意	問題を発見し、答えを生み出し、新たな価値を創造する力を身に付けた人物となるように努める。
	責任	主体的に行動し、最後までやりぬくことができる人物となるように努める。
■指導の方針「大同三訓」	時を守る 場を整える 礼を尽くす	

・大同大学

■建学の精神	産業と社会の要請に応える人材の養成
■理念	実学主義
	・大同大学は実学の教育と研究を通じて産業と社会に貢献します
■教育目標(学位授与の方針)	
(1) 社会人として活動するために必要な基礎的な能力を身につけている	
・健全な倫理観に基づき、規律性をもって主体的にかつ目標を定めて行動する力、現状を分析して目的や課題を明らかにする力、コミュニケーションを通じて他者と協働する力を身につけている。	
(2) 豊かな教養を身につけている	
・教養ある社会人に必要な文化・社会や自然・生命に関する一般的知識を身につけ、異なる思考様式を理解する態度が備わっている。	
(3) 確かな専門性を身につけている	
・自らの専門分野の基礎から応用までの理論・概念や方法論に関する知識を身につけ、当該分野の情報・データを論理的に分析し、問題解決のために応用できる。	
(4) 豊かな創造力を身につけている	
・獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自由な発想の下、独自に工夫・応用し、新たな知見を創造する力が備わっている	

(4) 設置する学校・学部・学科等

(2018年5月1日現在)

【大同大学大同高等学校】 所在地：名古屋市南区大同町2丁目21番地

課程名	学科名	摘要
全日制課程	普通科	
	機械科	
	電子情報デザイン科	

【大同大学】 所在地：名古屋市南区滝春町10番地3

学部等名	学科等名	摘要		
工学部	機械工学科			
	機械システム工学科			
	電気電子工学科			
	建築学科			
情報学部	情報システム学科			
	情報デザイン学科			
	総合情報学科			
大学院	工学研究科	修士課程	機械工学専攻	
		電気・電子工学専攻		
		建築学専攻		
		都市環境デザイン学専攻		
	博士後期課程	材料・環境工学専攻		
情報学研究科	修士課程	情報学専攻		

(5) 学校・学部・学科等の定員、学生生徒数の状況

【大同大学大同高等学校】

単位：人

課程名	学科名	2018年5月1日				2018年度卒業 者数	2019年5月1日現在			
		入学定員	入学者数	収容定員	現員数		入学定員	入学者数	収容定員	現員数
全日制課程	普通科	240	265	720	719	226	240	251	720	726
	機械科	160	172	480	561	213	160	148	480	484
	電子情報デザイン科	80	70	240	229	94	80	60	240	196
高校計		480	507	1,440	1,509	533	480	459	1,440	1,406

【大同大学】

単位：人

学部等名	学科等名	2018年5月1日				2018年度卒業 者数	2019年5月1日現在					
		入学定員	入学者数	収容定員	現員数		入学定員	入学者数	収容定員	現員数		
学部	工学部	機械工学科	120	125	460	505	98	120	131	480	531	
		総合機械工学科※	110	117	440	498	118	110	124	440	487	
		電気電子工学科	90	104	355	380	85	90	99	360	387	
		建築学科	165	202	640	748	141	165	227	660	811	
	小計		485	548	1,895	2,131	442	485	581	1,940	2,216	
	情報学部	情報システム学科	120	133	470	548	119	120	126	480	537	
		情報デザイン学科	110	124	430	480	107	110	135	440	496	
		総合情報学科	75	56	300	300	68	75	78	300	298	
小計		305	313	1,200	1,328	294	305	339	1,220	1,331		
学部計		790	861	3,095	3,459	736	790	920	3,160	3,547		
大学院	工学研究科	修士課程	機械工学専攻	8	23	16	41	18	8	16	16	39
			電気・電子工学専攻	6	4	12	6	2	6	0	12	4
			建築学専攻	5	5	10	5	0	5	7	10	12
			都市環境デザイン学専攻	5	1	10	5	4	5	4	10	5
		小計		24	33	48	57	24	24	27	48	60
	博士後期課程	材料・環境工学専攻	3	0	9	2	1	3	1	9	2	
情報学研究科	修士課程	情報学専攻	6	2	12	9	5	6	6	12	9	
大学院計		33	35	69	68	30	33	34	69	71		
大学計		823	896	3,164	3,527	766	823	954	3,229	3,618		

※工学部総合機械工学科は、2018年度より機械システム工学科に名称変更

(6) 役員・評議員・教職員の概要 (2019年3月31日現在)

① 役員概要

定員数… 理事 10人 監事 3人

役職名	氏名	勤務別	摘要 [主な現職]
理事長	奥村 博司	常勤	平成18年8月(2006)副理事長就任 平成19年8月(2007)理事長就任
常務理事	高村 誠一	常勤	平成26年8月(2014)理事就任 平成27年8月(2015)常務理事就任[大同学園法人本部長]
理事	神保 睦子	常勤	平成29年4月(2017)理事就任[大同大学長]
	服部 保孝	常勤	平成27年4月(2015)理事就任[大同大学大同高等学校長]
	大矢 郁夫	常勤	平成20年8月(2008)理事就任[大同学園法人副本部長]
	徳納 一成	常勤	平成29年4月(2017)理事就任[大同大学副学長]
	嶋尾 正	非常勤	平成29年8月(2017)理事就任[大同特殊鋼(株)代表取締役会長]
	三田 敏雄	非常勤	平成29年4月(2017)監事就任[中部電力(株)相談役]
	今井 正	非常勤	平成28年8月(2016)理事就任[新日鐵住金(株)執行役員]
監事	鈴木 清美	非常勤	平成29年8月(2017)理事就任[名古屋鉄道(株)専務取締役]
	盛田 國四郎	非常勤	平成29年4月(2017)監事就任[金城ライト(株)代表取締役会長]
	板摺 康宏	非常勤	平成28年8月(2016)監事就任[大同マシナリー(株)代表取締役社長]
	今井 建一	非常勤	平成27年8月(2015)監事就任

② 評議員概要

定員数… 21人

選任区分	氏名
職員	杉本 幸雄
	大嶋 和彦
	鹿島 孝之
	川原 雅寛
	徳納 一成
	丸山 弥生
	高橋 鉄男
	渡邊 慎一
	都築 孝宜

選任区分	氏名
卒業生	三宅 洋
	武田 宏
学生・生徒保護者	栗山 晃一
	安藤 茂幸
学識経験者	荒川 克彦
	猪村 美之
	奥村 博司
	小菅 茂
	田中 清貴
	秦野 淳臣
	宮嶋 晃
	水野 伸哉

③ 教職員の概要

(2018年5月1日現在)

【大同大学大同高等学校】 校長：服部 保孝

区分	高校計	
教員	校長	1
	教頭	3
	教諭	64
	講師	8
	計	76

単位:人

区分	高校計
職員	4

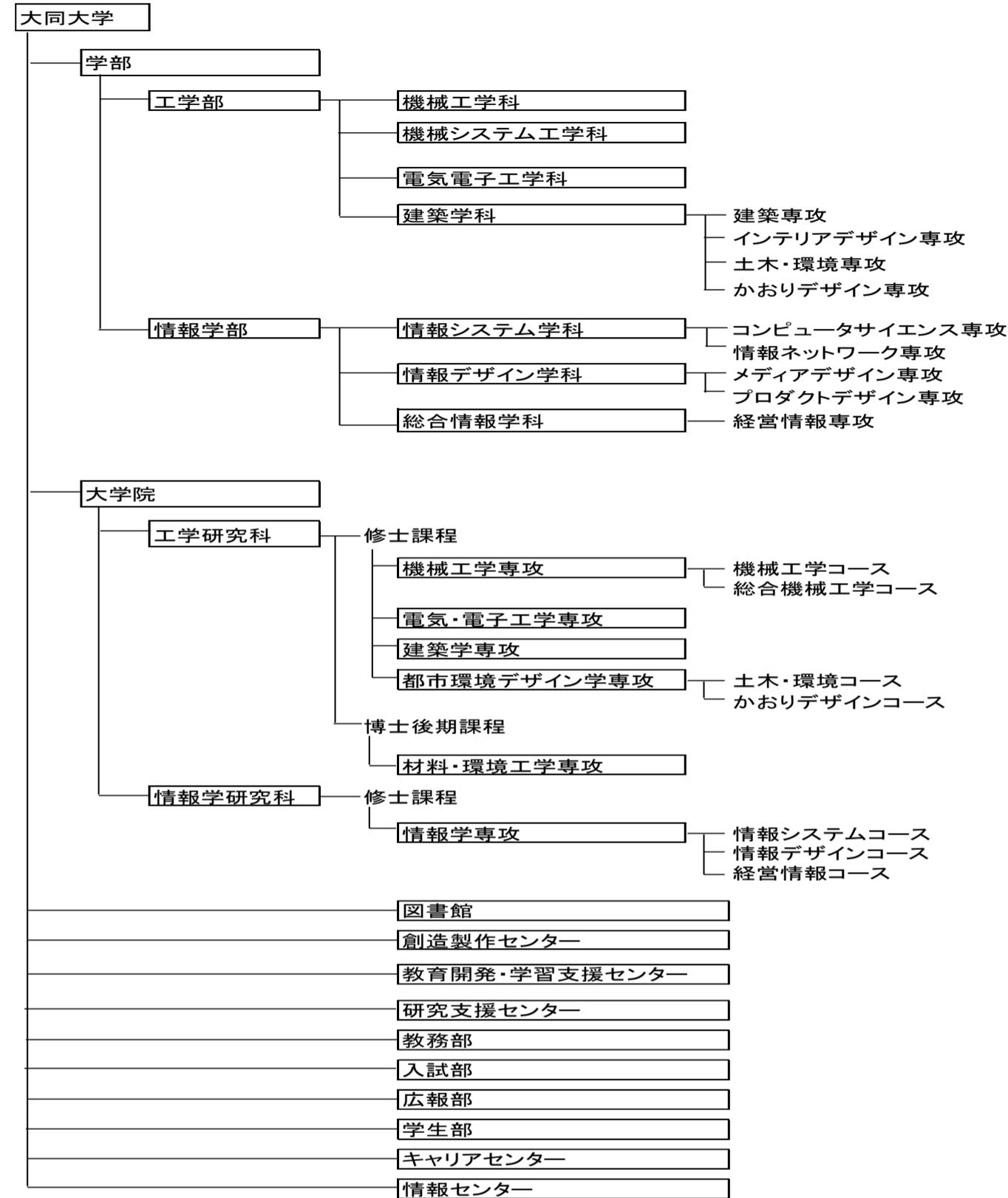
【大同大学】 学長：神保 睦子

単位:人

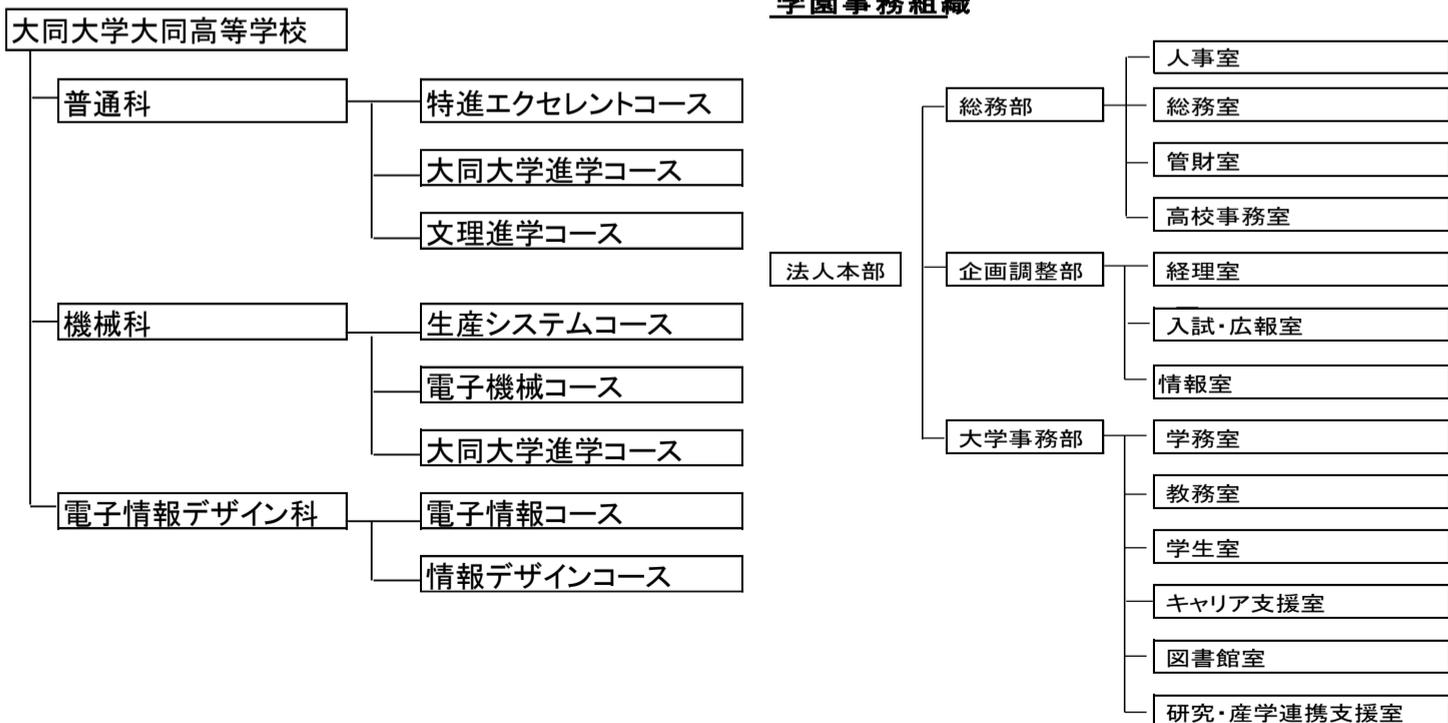
区分	学長	副学長	工学部	情報学部	教養部	大学計	
教員	学長	1				1	
	副学長		3			3	
	教授			33	20	11	64
	准教授			15	7	8	30
	講師			7	4	3	14
計	1	3	55	31	22	112	

区分	大学計
職員	71

(7) 学園組織構成図 (2019年3月31日現在)



学園事務組織



2. 事業の概要

(1) 大同大学

本学は、「産業と社会の要請に応える人材の養成」という建学の精神の下、大学の理念を「実学主義」と掲げ、実学の教育と研究を通じて産業と社会に貢献しています。特に近年では、経済産業省が提唱する「社会人基礎力」の養成にも意識的に取り組み、社会が求める人材を送り出しています。

【教育・研究活動の特徴】

①学科・専攻の再編

2018年4月より「総合機械工学科」の名称を、入学者やその保護者、さらには、卒業生の就職する企業にも、学科名称から学科の教育研究内容を理解いただけるよう、「機械システム工学科」に変更しました。また、情報学部総合情報学科かおりデザイン専攻について、理工系であることを意識した入学者を確保するべく工学部建築学科の下へ編入しました。

②名古屋市南区との連携協力に関する協定書締結

防災、福祉、教育研究、生涯学習、文化、スポーツ、ものづくり、まちづくり等の分野において相互に協力し、地域社会の発展と学生の育成に寄与することを目的として、2019年3月に連携に関する協定を名古屋市南区と締結しました。

③講義室 視聴覚設備の更新

B棟1室、C棟1室、F棟5室の各講義室のプロジェクター・スクリーンを更新し、学生の教育環境の整備を実施しました。

④社会人基礎力の養成

2016年度から社会人基礎力の養成を目的として実施しており、2018年度においては、1年次後期科目「社会実践1」では、「大同大学の改善」をテーマに、2年次前期科目「社会実践2」では、「企業への事業提案」をテーマに、それぞれグループごとに提案をまとめ、プレゼンを実施しました。「社会実践2」では、学生が考えた提案を実際に企業の方から講評をいただき、社会の厳しさを学ぶとともに、社会人として何が求められるかを学ぶことができました。

⑤社会人基礎力養成科目とSAの活用

2016年度から社会人基礎力の養成を目的として実施している「社会実践1」と「社会実践2」の各授業科目においては、SA(Student Assistant＝学部学生による授業補助者)を導入しており、当初の想定どおり、円滑な授業運営の実施に貢献しています。

また、SAには前年度から継続して担当する学生も多く、SA自身が教える・伝えることの難しさを学び、よりうまく学生の授業補助をするにはどうすればいいか、と自ら進んで考え、より積極的に参加することができたとの感想も多く報告されています。

⑥シラバスの充実と成績管理の厳格化(学修指導の充実)

教務委員会を通してシラバスの作成要領を毎年度更新するとともに、各教員から提出されたシラバスはそれぞれの学科等の教務委員が内容のチェックを行い、より充実したシラバスになるように努めています。2018年度では、準備学習(予習・復習等)の記載がまだ不十分との見解から、重点依頼内容として取り上げ、2019年度からのシラバスの内容をさらに充実させることに取り組みました。

⑦教育開発・学習支援センターの開設

授業開発センターは授業の改善、開発に関して教員を支援し、学習支援センターは大学での学びの前提となる高校までの学習を指導するとともに、学習全般に関する相談に対応し正規授業の学習が達成できるよう学生を支援してきました。

両センターは2018年4月に改組され、従来の任務は維持したうえで、本学の教育の改善に繋げる企画・立案を担います。

⑧研究授業・授業研究会の改革

研究授業/授業研究会を毎学期8回実施しています。実際の授業を教員相互で参観することにより、授業運営上の工夫を共有することができます。2018年度より新たに、テーマ設定型の研究授業を追加し、授業運営上抱えている問題・課題に対するアイデアや解決策の共有を図ることのヒントとなる研究授業を実施することができました。

⑨授業改善助成制度

2001年度より「授業開発助成制度」として支援が始まり、現在では「授業改善助成制度」としてより良い授業づくりに取り組む教員の改善計画に対して、2018年度は13件2,009千円を助成しました。

授業改善の取り組み、PBL型の授業の継続的実施の支援、授業をアクティブ化するためのSA(スチューデント・アシスタント)活用の支援を行っており、組織的なアクティブラーニングの推進の一端を担っています。

⑩教育開発・学習支援センター講演会

2016年より3回にわたって、「授業のアクティブ化・アクティブラーニング」をテーマに講演会を行ってきました。2018年度は教育開発・学習支援センターとしての最初の講演会として、文章力や表現力の不足、レポートが書けない学生への指導の難しさといったことが課題となっていた事を踏まえ、「書く＝考える」を通して、学生の内発的な学びの姿勢を引き出し育む「パーソナル・ライティング」をテーマとし、44名が参加しました。

⑪新入生オリエンテーション合宿

595名(欠席者1名)の新入生が授業開始前に行ったオリエンテーション合宿に参加しました。この合宿は、一泊二日の共同生活を通して、学生同士のコミュニケーションの向上や、今後の大学生活をより充実したものにする事を目的として実施しています。参加学生のアンケート結果では、98.4%がこの合宿を「有意義であった」「楽しかった」と回答しました。

⑫学生ホール改装の学生提案プロジェクト

学生ホールの改装提案を4月～10月に学生に対して募集したところ、5名の大学院生・学部生のエントリーがあり、11月に学内コンペを実施しました。応募者は4名の審査員(後援会副会長・学生部長・学生代表2名)に向けてプレゼン発表を行い、審査の結果、建築学科インテリアデザイン専攻2年生の提案(コンセプト「多様性」。用途に合わせて自由にレイアウトできる70～80名が利用可能な、居心地がよく、リラックスできる空間)が採用されました。2019年3月15日に改装が完了し、利用した学生や教職員からは「オシャレでクール」と好評を得ています。

⑬学内ワークスタディ支援

学生を学内における教育支援活動や自身の社会性向上に資する活動・業務に従事させることにより、職業意識・職業観を育むとともに、経済的事情により修学困難な学生に対する支援を行うことを目的に「大同大学学内ワークスタディに関する要項」を2018年3月に制定し、同年4月に施行しました。2019年度は、PC自習室学生相談コーナースタッフ3名と、後輩への学修支援アドバイザー8名を採用しました。

⑭学内インフルエンザ予防接種

インフルエンザによる出席停止者は年々増加しているため、だいたいクリニックと連携して、学内での予防接種を2017年度より実施しています。「待ち時間がなく、後援会援助のおかげで安価(学生負担は半額)、しかも院内感染のリスクも小さく、安全・安心、手軽で低価格」で予防接種を受けることができると好評で、2018年度は370名(昨年度218名)の学生が接種しました。

⑮体育館トレーニングルームの充実

筋トレルームも相まって、トレーニングルームを利用する一般学生が年々増加している中、2018年度に、健康意識の向上と学生同士の交流や居場所の提供を目的として、より安全で効率・効果の高い新規マシン2機を設置し、トレーニングルームの充実を図りました。

⑯屋外用木製テーブル・ベンチ更新

昼食・休憩場所として利用者が多いため、檜の野外テーブル・ベンチを更新・充実しました。

⑰健康相談・心的支援・生活相談支援

保健室では看護師が常駐し、怪我・病気の応急処置や健康相談に応じ、学生相談室では臨床心理士が毎週火曜日と金曜日、相談に応じています。また、専門機関による24時間電話健康相談サービスおよびメンタルヘルスのカウンセリングサービス「大同大学こころとからだの相談窓口24」も開設しています。すぐに相談をしたいけれど、大学窓口が開いていないときや、大学に相談してよいか悩んだときなどに利用されています。

⑱障がい学生の支援体制の充実

「大同大学障がい学生支援ガイドライン」を2016年4月1日に制定し、全学の関係者が協力して障がいを持つ学生への支援に取り組む体制を整えました。学生(もしくは保護者)からの相談に応じ、学科専攻(指導教員)・学生室(保健室・学生相談室)・当該学生の担当医師が三位一体となり、同ガイドラインに則った合理的配慮等に努めています。

⑲保護者向け就職セミナーの開催

学生の就職支援は、大学だけでなく保護者の協力も必要であり、学生の就職活動状況と現状について、保護者にも知っていただくため、2018年9月1日(土)に「保護者向け就職セミナー」を開催しました。このセミナーには、88組(103名)の保護者が参加し、「キャリア支援室長による講演」「就職活動を終えた学生によるパネルディスカッション(就活体験談)」「各学科専攻の教員との懇談会」等を行いました。

⑳資格取得支援

2018年度は、就職活動支援講座を4講座、資格取得支援講座を42講座、合計46講座を教育課程外の講座として開講しました。

就職活動支援講座は、公務員試験対策講座2講座、就職活動に関するまとめ講座2講座を開講しました。また、資格取得支援講座では、国家資格に関する講座19講座、民間資格に関する講座18講座、公的資格に関する講座3講座、語学資格に関する講座2講座を開講しました。

なお、以上の資格取得講座の受講料の一部や受験料の一部を本学後援会の援助を受けて学生に返還しています。

㉑学内企業説明会の開催

2019年3月卒業・修了見込学生対象の学内企業説明会は、売り手市場がますます強くなり、各業界からの強い参加希望があることから、これに応えるべく、前年度より約10社上回る560社の企業等が参加する大規模な合同企業説明会を開催しました。

㉒キャリア教育、就職ガイダンスの充実

教育課程外のキャリア教育及び就職ガイダンスを次のとおり実施しました。

(1) 就職力アップセミナー(対象:学部1・2年次生)

低学年次(1・2年次生)では、年間8回ずつ、「就職力アップセミナー」を開講しています。このセミナーは社会や仕事で求められる力を理解した上で、進路決定までの4年間の流れを学び、低学年次からできる就職活動準備を自ら定めることにより、職業観の醸成を目指しています。

(2) 就職ガイダンス(対象:学部3年次生、大学院1年次生)

3年次生等では、この時期を本格的な就職準備活動期と位置づけ、「自己を知る」「業界・企業を知る」「就職活動のテクニックを知る」ことを基軸とした年間11回の就職ガイダンスを行っています。またこれらと並行して、少人数による「面接・グループディスカッション対策」や「自己紹介書の書き方」等のフォローアップ講座を多数開催しています。

以上に加え、大学院1年次生には、4・11月に院生限定の就職ガイダンス(座学)と2月にグループディスカッションの対策講座を開催した。

(3) 就職先内定者ガイダンス(対象:学部4年次生、大学院2年次生)

内定を得た学生を対象に、就業に対する知識の充実のため、労働法の基礎知識を理解させるガイダンスを実施しています。

㉓図書館システムの更新

サーバー等の老朽化に伴い、図書館システムを更新しました。

新システムは、2020年の国立情報学研究所の新システムCAT2020の運用開始に対応するとともに、学外にサーバーを設置するクラウド型システムで、2019年4月に稼働しました。

㉔図書館長と学生との懇親会

図書館サービスの内容が急激に変貌している昨今、利用者(学部学生、大学院学生)のニーズを的確に掴む手段の一つとして、図書館長と利用者が直接話す機会である「図書館長と学生との懇親会」を実施しています。この懇親会は2015年度から毎年1回、図書館の館長室で、軽食を取りながらリラックスした雰囲気の中で開催し、利用者の要望を聞いており参加者からは、参加して良かったとの感想を多く貰っています。

㉕ラーニングコモンズ施設としての図書館の利用状況

ラーニングコモンズ施設として、学習閲覧室、グループ閲覧室、グループAV室を設置しています。

学習閲覧室には、3人掛けティアーテーブル12台、荷物棚付き椅子36脚、ホワイトボード12台を設置。グループ閲覧室には、4人掛けテーブル4台、荷物棚付き椅子16脚、ホワイトボード4台を設置し、主にアクティブラーニング型授業の授業時間外の協同グループ学習に対応してします。グループ学習ができるスペースであることを強調して案内した事と、机・椅子の配置換えが容易な家具に変更した事により、利用率は上がり、利用者にも人気のスペースとなっています。

また、グループAV室は、メモ台と荷物棚付きの椅子と、ホワイトボード2台を設置し、プロジェクターによる映像投影を可能にした定員30名の施設であり、卒業研究発表の練習等に利用されています。

㉖ビブリオバトルの開催

2016年度の「図書館長と学生との懇親会」で、学生からの開催の要望があり、2017年度から開催しています。発表者が自分の気に入っている本を5分間のスピーチで紹介し、参加者全員の投票で、皆が最も読みたいと思った本を決めるという内容であり、学生のプレゼンテーション能力の向上にも寄与しています。

⑦選書ツアーの実施

図書館の選書に、より興味を持って貰うことを目的に、2011年より年に1～2回のペースで「選書ツアー」を実施しています。名古屋市内の大型書店で、高価な図書や、大量の図書を選書できることに、毎回、参加者から好評を得ています。

学生が選書した図書は、図書館員による内容の精査を受けた後、図書館の所蔵資料として受入れ、選書ツアー・コーナーに配架しています。

【学生の活動実績(強化クラブ・その他クラブ)】

レーシングカート部は第23回全国学生カート選手権で史上最多6回目の総合優勝を成し遂げました。なお、2018年度の主な成績は以下のとおりです。

・強化クラブ

<男子ハンドボール部>

東海学生ハンドボール春季リーグ戦(1部)優勝、
チャレンジ・デヴィジョン3位、各種個人賞

<女子ハンドボール部>東海学生ハンドボール秋季リーグ戦(1部)準優勝、
東海学生ハンドボール春季リーグ戦(1部)準優勝、各種個人賞

<バレーボール部>

東海大学男女バレーボールリーグ戦秋季大会(1部)5位、各種個人賞

・その他クラブ

<レーシングカート部>

全国学生カート選手権 学校別総合優勝、各種個人賞

<ロボット研究部>

小型ロボット競技会BRAVE 優勝、各種個人賞

<空手道部>

三重大学・高専空手道選手権大会 個人優勝

<弓道部>

愛知県下弓道選手権大会 男子個人3位

<硬式野球部>

愛知大学野球春季リーグ戦(3部)敢闘賞

<自動車部>

全日本学生ドリフト王者決定戦西大会 D-max賞

<フィギュアスケート同好会>

中部学生新人歓迎フリー大会 ジュニア選手権クラス女子3位、

中部学生氷上競技大会フィギュアの部ジュニア選手権 クラス女子3位

【国際交流】

①韓山師範学院との学生交換留学

韓山師範学院は、中国の広東省潮州市にある110年の歴史を有する総合大学です。教員間の研究上の交流を契機に、同大学との大学間交流に関する協議を重ね、2012年4月に学術交流協定、2013年5月に学生交流に関する覚書を締結しました。2018年度は、9月2日から9月15日まで、本学学生9名と引率教職員2名が中国に短期留学し、交流しました。また11月12日から11月23日までは、韓山師範学院から学生10名と引率教職員2名を受け入れました。実験・実習や学外での工場・施設見学を始め、留学生向けのさまざまなプログラムを提供した盛りだくさんの2週間となりました。

【産学連携】

①受託研究・共同研究実績

本学では、「研究支援センター」を設置し、多岐にわたる産学官金の連携・交流を通じて、社会の要請に応えるべく、公的研究機関・自治体及び民間企業との共同研究等を積極的に推進しています。2018年度の外部研究資金の導入総額は約87百万円で、そのうち公的競争資金は71百万円、企業等からの受託研究は6件、約3百万円、共同研究は19件、約13百万円でした。

②知多半島生態系ネットワーク関連事業

知多半島を中心とした動植物等の生態系保全活動や環境学習活動を支援する知多半島生態系ネットワーク協議会の事務局を担当しました。外来種の脅威をテーマにした「知多半島生態系ネットワークフォーラム」を開催しました。映像を中心とした外来種対策の重要性を啓蒙する内容で、多くの聴講者から好評得ました。

③モータ研究センター設置

大同特殊鋼株式会社殿からのご寄付により、10月1日に本学内にモータ研究センターが開設されました。ここでは、ハイブリッド車、プラグインハイブリッド車、電気自動車、燃料電池自動車の普及などで、今後さらに小型・軽量・大出力化のニーズが高まるモータについて、その設計・評価における研究開発とそれを担う学生・大学院生、企業の技術者などの人材育成を行います。

④研究シーズ集の作成

教員のもつ研究シーズを収集し、シーズ集として大学のホームページに公開しました。これは企業等の研究開発のネタを提供するもので、本学教員との共同研究等へのきっかけとして利用いただくものです。

(2) 大同大学大同高等学校

【全般】

本年度は、高校創立80周年を期して様々な施設・設備の更新計画を立案しました。ハード面の整備計画と並行して、昨年度に引き続いて「授業見学等を活用して、生徒が主体的に学ぶ、活力ある学校作りを推進する」との重点目標を学校として掲げ、授業見学の実施や「授業改善についての振り返りシート」の提出を課して授業改善に努めました。

また、本校では普通科、工業科とも、生徒の進路希望の実現に教職員一丸となり取り組みました。結果として、就職率は100%を堅持しましたが、進学実績は、特進エクセレントクラスでは、センター試験で振るわず、国公立大学合格者は18名中3名と苦戦しました。しかし、特進エクセレントクラス以外からも大学進学に意欲的に取り組む生徒が出てきて、工業科から国立大学1名や、名城大学等の難関私大の合格者を増やしました。

【教育活動】

① 入学者

2018年度の入学者は普通科266名、工業科242名の計508名でした。

2018年度入試では、スポーツ進学コース、私大進学コースを廃し、新しく文理進学コースを起しました。文系、理系の選択が高校になってからできることが中学校から評価され、このコースは178名の入学生を獲得、普通科全体で266名とこの10年間で最大の入学者を獲得しました。

2019年度入試では、普通科は引き続き好調で251名の入学者を出しました。しかし工業科が振るわず、推薦入試では194名入学者を出しましたが、一般入試で志願者593名中487名の合格者を出したにもかかわらず入学者は14名に止まり、合計208名と大きく学則定員を下回りました。

② 授業改革の推進

昨年度より授業改革WGを立ち上げ、授業改善に向けて検討を重ねました。今年度は関東の私学の視察や、各種研究会に積極的に参加して授業改善の構想を練りました。その提案を踏まえて全教室に黒板投影型プロジェクタの導入を学園に提案し、次年度夏に実現することとなりました。今後、授業改革WGを核として、ICT機器を有効に活用した授業改善を推進していきます。

③ 工業科の施設更新

工業科施設設備WGの提案した設備の更新プランに従って溶接機器等を更新しました。また、次年度には高校創立80周年として工作センターの旋盤、フライス盤の更新計画を立案し学園へ提案しました。

④ 生徒指導の新しい問題

SNSがらみのトラブルが続出し、生徒指導の数が大きく増えました。その対策として、在校生だけでなくPTA会員に対しても専門家を招いて「SNSやインターネットの使い方講座」と題する講座を開催しました。この講座は平成31年度入学の新一年生にもオリエンテーションの場で行い、トラブルの防止を図ります。

⑤ ボランティア活動及び公開講座

年間を通じて学校を挙げて実施している清掃ボランティア活動によって、身近な環境への関心を深め、地域と共生できる学校づくりを進めています。さらに、中学校や地域との共生を目指して、ニーズの高いICT講座、パソコン講座等を引き続き積極的に展開しています。

⑥ 就職支援

本年度も学校斡旋就職率100%を達成しました。好景気の中で企業は人手不足で、求人数、求人企業数とも昨年度を上回っています。

⑦ 課外活動成績

運動クラブでは、夏のインターハイにはソフトテニス部と剣道部(女子)が個人戦に出場しました。冬のインターハイでフィギュアスケート部が団体に3位を獲得しました。春には男女剣道部、女子ハンドボール部、ソフトテニス部が全国選抜大会に出場しました。特にソフトテニス部はベスト8に入る活躍をしました。また、男子バレーボール部が全国私学大会に出場しました。サッカー部は3学年で156名の部員を抱え、教員3名と外部指導員11名(内大学事務員1名、非常勤講師3名)で指導にあたっている。愛知県サッカー協会のリーグ戦には4チームが参加、トップチームは本年度より強豪揃いの1部リーグに昇格、10チーム中6位の成績で1部残留を果たしました。文化クラブでは、演劇部が12月の中部日本高校演劇大会に出場、吹奏楽部が中部日本個人・重奏コンテストに出場しました。またクリエイティブ部が総合格闘コマ大戦で2位となりました。

⑧ 基幹業務システムの構築

入学から卒業までの学籍等を一元管理するためのシステム「メソフィア」の稼働を開始しました。今年度は旧システムと並行稼働し種々の問題点の解消に努めましたが、さまざまな場面で調整に手間取り、順調には運びませんでした。次年度は改善状況を確認しつつ本格運用を進めます。

(3) 施設等の状況

① 主な現有施設設備の状況

所在地	施設等	面積等(㎡)				取得価額 (千円)	帳簿価額 (千円)	
		大学専用	共用	高校専用	計			
愛知県名古屋市	校舎敷地	39,484.57		20,267.21	59,751.78	2,179,136	5,431,038	
	運動場敷地	13,767.38	16,061.85		29,829.23	2,222,891		
	艇庫敷地	1,069.43			1,069.43	62,100		
	駐車場敷地	1,359.46			1,359.46	6,169		
愛知県知多市	校舎・運動場敷地	31,668.97			31,668.97	75,742		
愛知県東海市	運動場敷地等	20,890.00			20,890.00	885,000		
	土地 計	108,239.81	16,061.85	20,267.21	144,568.87	5,431,038		
愛知県名古屋市	校舎等: 滝春キャンパス	41,515.22	102.63		41,617.85	8,968,320		8,263,779
	図書館: 滝春キャンパス	3,589.94			3,589.94	1,000,908		
	体育館: 滝春キャンパス	3,387.77			3,387.77	688,236		
	校舎等: 白水キャンパス	7,686.89			7,686.89	1,544,052		
	校舎等: 大同町			12,898.89	12,898.89	2,734,987		
	体育館: 大同町			5,558.38	5,558.38	780,685		
愛知県知多市	校舎・柔剣道場ほか	3,940.30			3,940.30	616,420		
その他	ゼミナーハウスほか	807.49			807.49	121,863		
	建物 計	60,927.61	102.63	18,457.27	79,487.51	16,455,471		
	構築物				435	1,675,227	571,213	
	図書				278,049	1,519,575	1,519,575	
	教具、校具および備品				13,418	4,425,095	1,029,247	
	車輛				11台	79,535	16,302	

② 主な施設設備の取得改善状況

単位: 百万円

大学	… システム更新	11
	… 学生実験機器更新	12
	… D棟・B棟空調更新	144
	… 講義室視聴覚設備(プロジェクター)の更新	13
高校	… 電気・電子系実習装置の更新	13
	… ICT機器更新	4

(4) 教員(FD)・職員(SD)の充実

事務職員の業務遂行能力(知識及び技能並びに態度)及び資質の向上を目的として、2018年度に実施した研修とその概要は以下のとおりです。

- ・「タイムマネジメント研修」: 仕事を主体的・効率的に進めるための時間管理を学ぶ。
- ・「組織のタイムマネジメント研修」: 管理職の立場から組織の効率化について学ぶ。
- ・「大学職員のための学生対応力向上研修」(日本福祉大学との合同研修): 事例を用いながら、学生に対する窓口対応のあり方(職員による対応のあり方)について学ぶ。
- ・「学園職員基礎知識研修～会計編～」: 本学園の事務職員として必要な会計に関する基礎知識を学ぶ。
- ・「学園職員基礎知識研修～給与・労務編～」: 本学園の事務職員として必要な給与及び労務に関する基礎知識を学ぶ。

上記の他、教職員を対象に「青年期における精神疾患とその対処法について」をテーマにした勉強会を実施しました。

3. 財務の概要

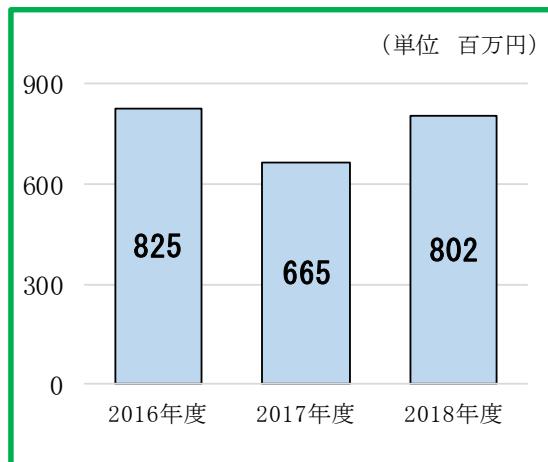
(1) 当該年度の財務状況

2018年度決算

(単位 百万円)

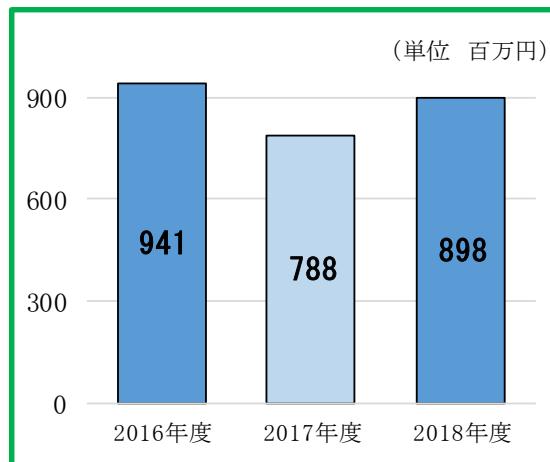
	2018年度	前年度比増減
①教育活動収支差額	802	20.6%
②基本金組入前収支差額	898	14.0%
③固定資産取得額	472	Δ17.9%
④フリーキャッシュフロー	896	29.9%

① 教育活動収支差額の推移



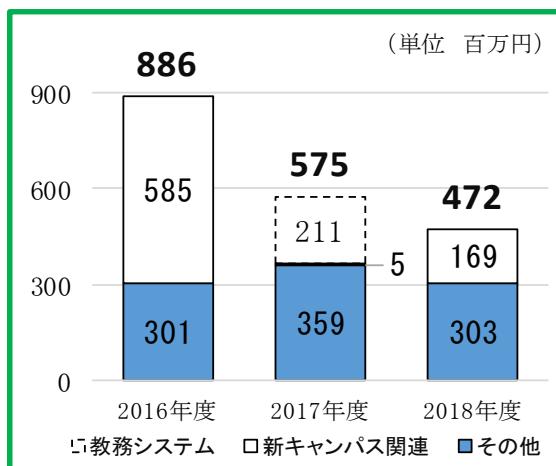
教育活動収支差額は、前年度比20.6%増加し802百万円となりました。主な要因は、大学・高校ともに補助金収入の増加、高校の在籍者数増による学納金収入の増加です。

② 基本金組入前収支差額の推移



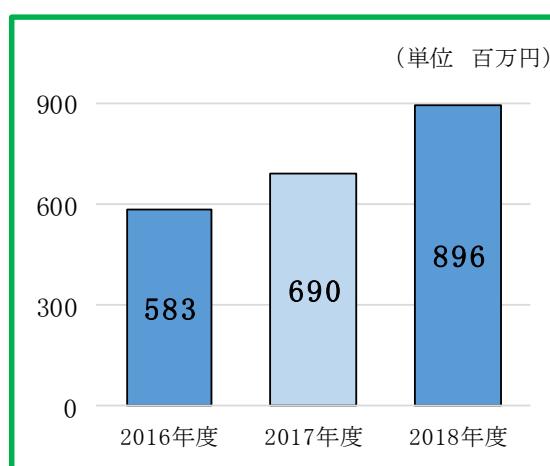
基本金組入前収支差額は、前年度比14.0%増加し898百万円となりました。主な要因は、教育活動収支差額の増加です。また、資産運用による利息収入は減少したため、教育活動外収支差額はやや減少しています。資産の除却は増加し、特別収支差額は減少しています。

③ 固定資産取得額の推移



固定資産取得額は、前年度比17.9%減少し、472百万円となりました。主な要因は、前年度の教務システムの取得額分の減少と、新キャンパス建設費用の増加です。主な取得資産は、空調機更新工事の144百万円です。また新キャンパス関連の内訳は、2016年度は土地取得費、2017年度は地質調査費、2018年度は建設設計業務委託費となっております。

④ フリーキャッシュフローの推移



フリーキャッシュフローは、前年度比29.9%増加し、896百万円となりました。主な要因は大学・高校共に補助金収入の増加と、高校の在籍者数増による学納金収入の増加、大学の入学志願者数増による手数料収入の増加です。

(2) 主な財務指標の推移

(単位 百万円)

		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	
事業活動収支計算書	収入	学生生徒等納付金	5,028	4,964	5,149	5,159	5,194
		経常費等補助金	874	857	932	884	966
		退職金財団交付金収入	190	261	175	79	152
		その他	347	259	264	262	332
	支出	人件費	3,584	3,473	3,492	3,512	3,510
		退職金	195	262	195	79	159
		教育研究経費・管理経費支出	2,256	2,286	2,008	2,127	2,172
		教育活動収支差額	404	319	825	665	802
		経常収支差額	503	442	945	763	894
		基本金組入前収支差額	516	379	941	788	898
当年度収支差額		454	379	268	481	520	
フリーキャッシュフロー		914	511	583	690	896	
貸借対照表	資産	有形固定資産	17,201	16,947	17,210	17,037	16,964
		特定資産	3,851	3,851	3,850	3,850	3,850
		その他の固定資産	3,671	3,689	3,063	4,296	3,032
		流動資産	6,100	6,656	7,837	7,442	9,725
		総資産	30,823	31,143	31,960	32,625	33,571
	負債	固定負債	1,796	1,680	1,578	1,553	1,555
		流動負債	2,746	2,804	2,782	2,684	2,729
		総負債	4,542	4,484	4,360	4,237	4,284
		基本金	29,458	29,203	29,850	30,145	30,523
		繰越収支差額	△ 3,177	△ 2,544	△ 2,249	△ 1,757	△ 1,236
純資産の部合計		26,281	26,659	27,600	28,388	29,287	

(単位 百万円)

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
人件費比率	57.8%	57.8%	55.5%	55.4%	54.5%
学生生徒等納付金比率	76.9%	76.8%	77.6%	79.6%	77.1%
教育活動収支差額比率	6.3%	5.0%	12.7%	10.4%	12.1%
経常収支差額比率	7.7%	6.8%	14.2%	11.8%	13.3%
事業活動収支差額比率	7.8%	5.8%	14.1%	12.1%	13.3%
有形固定資産構成比率	55.8%	54.4%	53.9%	52.2%	50.5%
特定資産構成比率	12.5%	12.4%	12.1%	11.8%	11.5%
純資産構成比率	85.3%	85.6%	86.4%	87.0%	87.2%
流動比率	222.2%	237.4%	281.7%	277.2%	356.3%
負債比率	17.3%	16.8%	15.8%	14.9%	14.6%

※人件費比率	……………	人件費／経常収入
※学生生徒等納付金比率	……………	学生生徒等納付金／経常収入
※教育活動収支差額比率	……………	教育活動収支差額／教育活動収入
※経常収支差額比率	……………	経常収支差額／経常収入
※事業活動収支差額比率	……………	基本金組入前収支差額／事業活動収入
※有形固定資産構成比率	……………	有形固定資産／総資産
※特定資産構成比率	……………	特定資産／総資産
※純資産構成比率	……………	純資産／負債＋純資産
※流動比率	……………	流動資産／流動負債
※負債比率	……………	総負債／純資産

(3) その他

① 有価証券の状況

単位:百万円

有価証券の種類	帳簿価額	時価	貸借対照表表示科目
公共債	500	513	退職給与引当特定資産、有価証券
事業債	3,900	3,931	施設整備準備特定資産、有価証券 第3号基本金引当資産
地方債	300	305	退職給与引当特定資産
ユーロ円債	3,100	3,009	施設整備準備特定資産、有価証券
株式	1	—	有価証券
合計	7,801		

注、上記時価は、当該期末時点での金利情勢や需給動向の変化による債券価額であります。
本学では、基本的に、満期日までの間に債券の価格が変動しても、満期日を迎えると額面金額の100%が償還される円建債券に限定し購入しております。

② 借入金の状況

単位:百万円

借入先	借入残高	利率	償還期限	担保等
愛知県私学振興事業財団	9	—	2020年2月	なし
合計	9			

注、愛知県私学振興事業財団からの借入金は、「授業料軽減補助金」の交付に伴い、計上したものであり、貸借対照表上の資産勘定「未収入金」と両建てとなっております。

③ 寄付金の状況

単位:百万円

寄付金の種類	寄付者	金額	摘要
教育環境整備のための 寄付金	大同大学後援会	52	学生課外活動援助金等
	大同大学学生会	0	教育研究に要する経常的経費
	大同大学大同高等学校同窓会	2	
	大同特殊鋼(株)	1	
奨学寄付金	大同特殊鋼(株)ほか	40	学術研究資金
現物寄付金	その他	8	研究用機器備品等
合計		105	

④ 関連当事者等との取引の状況

財務上又は事実上の関係から、法人の意思決定に関し重要な影響を及ぼすことが明らかな関連当事者及び出資会社との取引はありません。

資金収支計算書

2018年4月1日から2019年3月31日まで

収入の部

(単位:千円)

科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	5,192,529	5,193,504	▲ 975
手数料収入	157,943	164,801	▲ 6,858
寄付金収入	102,802	97,154	5,648
補助金収入	965,983	968,306	▲ 2,323
国庫補助金収入	311,351	313,726	▲ 2,375
地方公共団体補助金収入	654,632	654,580	52
資産売却収入	2,020,000	1,620,100	399,900
付随事業・収益事業収入	54,390	57,441	▲ 3,051
受取利息・配当金収入	92,381	92,343	38
雑収入	177,474	177,086	388
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	2,488,571	2,527,518	▲ 38,947
その他の収入	874,460	744,920	129,540
資金収入調整勘定	▲ 2,632,058	▲ 2,634,624	2,566
前年度繰越支払資金	6,270,879	6,270,879	0
収入の部合計	15,765,354	15,279,428	485,926

支出の部

(単位:千円)

科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	3,660,360	3,658,834	1,526
教育研究経費支出	1,470,441	1,360,923	109,518
管理経費支出	251,421	242,449	8,972
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	25,483	25,482	1
施設関係支出	326,762	320,236	6,526
設備関係支出	156,258	144,600	11,658
資産運用支出	1,600,000	1,200,000	400,000
その他の支出	208,462	64,106	144,356
(予備費)	34,985	0	34,985
資金支出調整勘定	▲ 43,253	▲ 43,844	591
翌年度繰越支払資金	8,074,435	8,306,641	▲ 232,206
支出の部合計	15,765,354	15,279,428	485,926

資金収支計算書は、当該年度の諸活動に対するすべての収入及び支出の内容、並びに支払資金の収入及び支出のてん末を明らかにするための計算書であります。

活動区分別資金収支計算書

2018年4月1日から2019年3月31日まで

教育活動による資金収支

(単位:千円)

科 目	金 額
学生生徒納付金収入	5,193,504
手数料収入	164,801
特別寄付金収入	84,405
経常費補助金収入	966,143
付随事業収入	57,441
雑収入	177,086
教育活動資金収入計	6,643,380
人件費支出	3,658,834
教育研究経費支出	1,360,923
管理経費支出	242,299
教育活動資金支出計	5,262,055
調整勘定	▲ 40,140
教育活動資金収支差額	1,341,185

施設整備等活動による資金収支

(単位:千円)

科 目	金 額
施設設備寄付金収入	12,749
施設設備補助金収入	2,163
施設整備売却収入	100
施設整備準備引当特定資産取崩収入	400,000
施設整備等活動資金収入計	415,012
施設関係支出	320,236
設備関係支出	144,601
施設整備準備引当特定資産繰入支出	400,000
施設整備等活動資金支出計	864,837
調整勘定	4,468
施設整備等活動資金収支差額	▲ 445,357
フリーキャッシュフロー	895,828

その他の活動による資金収支

(単位:千円)

科 目	金 額
有価証券売却収入	1,620,000
貸付金回収収入 他	233,199
受取利息・配当金収入	92,343
その他の活動資金収入計	1,945,542
借入金等返済支出	25,482
有価証券購入支出	600,000
貸付金支払支出 他	205,608
その他の活動資金収支差額	831,090
調整勘定	25,482
その他の活動資金収支差額	1,139,934
支払資金の増減額	2,035,762
前年度繰越支払資金	6,270,879
翌年度繰越支払資金	8,306,641

活動区分資金収支計算書は、当該年度の教育活動、施設設備等活動、財務活動を資金の流れに応じて区分表示するための計算書であります。

事業活動収支計算書

2018年4月1日から2019年3月31日まで

教育活動収支

(単位:千円)

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	5,192,529	5,193,504	▲ 975
手数料	157,943	164,800	▲ 6,857
寄付金	91,099	84,703	6,396
経常費補助金	963,820	966,143	▲ 2,323
付随事業収入	54,390	57,441	▲ 3,051
雑収入	177,474	177,091	383
教育活動収入計	6,637,255	6,643,682	▲ 6,427
人件費	3,671,676	3,669,972	1,704
教育研究経費	2,027,130	1,917,035	110,095
管理経費	263,014	254,040	8,974
徴収不能額等	618	618	0
教育活動支出計	5,962,438	5,841,665	120,773
教育活動収支差額	674,817	802,017	▲ 127,200

教育活動外収支

(単位:千円)

科目	予算	決算	差異
受取利息・配当金	92,381	92,343	38
その他の教育活動外収入	0	0	0
教育活動外収入計	92,381	92,343	38
借入金等利息	0	0	0
その他の教育活動外支出	0	0	0
教育活動外支出計	0	0	0
教育活動外収支差額	92,381	92,343	38
経常収支差額	767,198	894,360	▲ 127,162

特別収支

(単位:千円)

科目	予算	決算	差異
資産売却差額	100	0	100
その他の特別収入	18,663	22,554	▲ 3,891
特別収入計	18,763	22,554	▲ 3,791
資産処分差額	21,104	18,878	2,226
その他の特別支出	150	150	0
特別支出計	21,254	19,028	2,226
特別収支差額	▲ 2,491	3,526	▲ 6,017
予備費	34,985	0	34,985
基本金組入前当年度収支差額	729,722	897,886	▲ 168,164
基本金組入額	▲ 381,920	▲ 377,484	▲ 4,436
当年度収支差額	347,802	520,402	▲ 172,600
前年度繰越収支差額	▲ 1,756,844	▲ 1,756,844	0
基本金取崩額	0	0	0
翌年度繰越収支差額	▲ 1,409,042	▲ 1,236,442	▲ 172,600

事業活動収支計算書は、当該年度の教育活動、教育活動以外の経常的な活動、経常外の活動に対応する収入及び支出の均衡状態を明らかにするための計算書であります。

(参考)

(単位:千円)

科目	予算	決算	差異
事業活動収入計	6,748,399	6,758,580	▲ 10,181
事業活動支出計	6,018,677	5,860,693	157,984

貸借対照表

2019年3月31日

資産の部

(単位:千円)

科 目	本年度末	前年度末	差 異
固 定 資 産	23,846,086	25,183,537	▲ 1,337,451
有形固定資産	16,963,554	17,037,461	▲ 73,907
土地	5,431,038	5,431,038	0
建物	8,263,779	8,370,373	▲ 106,594
構築物	529,929	571,213	▲ 41,284
機器備品	1,029,246	1,123,056	▲ 93,810
図書	1,519,575	1,514,721	4,854
車輛	16,303	22,341	▲ 6,038
建設仮勘定	173,684	4,720	168,964
特定資産	3,850,467	3,850,467	0
その他の固定資産	3,032,065	4,295,609	▲ 1,263,544
流 動 資 産	9,724,566	7,441,629	2,282,937
現金預金	8,306,641	6,270,879	2,035,762
その他の流動資産	1,417,925	1,170,750	247,175
資産の部合計	33,570,652	32,625,166	945,486

負債の部

(単位:千円)

科 目	本年度末	前年度末	差 異
固 定 負 債	1,555,245	1,552,395	2,850
長期借入金	0	8,580	▲ 8,580
長期預り金	10,102	9,811	291
退職給与引当金	1,545,143	1,534,005	11,138
流 動 負 債	2,729,025	2,684,275	44,750
短期借入金	8,579	25,482	▲ 16,903
前受金	2,527,518	2,480,191	47,327
その他の流動負債	192,928	178,602	14,326
負債の部合計	4,284,270	4,236,670	47,600

純資産の部

(単位:千円)

科 目	本年度末	前年度末	差 異
基 本 金	30,522,824	30,145,340	377,484
第1号基本金	29,901,357	29,523,873	377,484
第3号基本金	200,467	200,467	0
第4号基本金	421,000	421,000	0
繰越収支差額	▲ 1,236,442	▲ 1,756,844	520,402
翌年度繰越収支差額	▲ 1,236,442	▲ 1,756,844	520,402
純資産の部合計	29,286,382	28,388,496	897,886
負債及び純資産の部合計	33,570,652	32,625,166	945,486

減価償却累計額	12,841,004	12,365,094	475,910
基本金未組入額	0	0	0

貸借対照表は、「財政状態の健全性」および「必要資産の保有状況」についての計算書であります。

財産目録

2019年3月31日

(単位:千円)

概 要	
1.資産総額	33,570,652
内 基本財産	17,368,111
運用財産	16,202,541
2.負債総額	4,284,269
3.正味財産	29,286,382

(単位:千円)

科 目		金 額
資産額	土地	143,209 m ² 5,424,869
	建物	79,488 m ² 8,263,779
	構築物	431 点 528,236
	図書	278,049 冊 1,519,575
	教具・校具・備品	13,418 点 1,029,247
	車輜	11 台 16,303
	基本財産	建設仮勘定 1 口 173,683
	借地権	2,867 m ² 16,500
	電話加入権	49 口 3,055
	管理用ソフトウェア	1 本 4,095
	教育用ソフトウェア	5 本 172,239
	第3号基本金引当資産	2 口 200,467
	保証金	2 口 16,062
	預金・現金	8,306,641
	積立金	3,650,000
	その他資産	157
	長期有価証券	2,751,400
	有価証券	1,200,000
	運用財産	前払金 38,457
貯蔵品	56	
長期貸付金	101 人 68,557	
不動産：土地	1,359 m ² 6,169	
不動産：構築物	4 点 1,693	
未収入金	163,013	
短期貸付金	101 人 14,258	
仮払金	2,141	
資産総額		33,570,652
流動負債	長期預り金：退職金財団交付金	10,102
	退職給与引当金	1,545,143
	短期借入金：愛知県私学振興事業財団	8,579
	未払金	33,101
	前受金	2,527,517
	預り金	159,827
負債総額		4,284,269
正味財産(資産総額-負債総額)		29,286,382